第２３回　松本市長と車座集会「みんなの尼活皆議」

＜フリートーク型＞

対話録概要

と　　き	令和８年６月１４日（日）　　午後１時３０分から午後３時３０分まで
と こ ろ	中央北生涯学習プラザ　１階フリースペース
出 席 者	参加者　１２人、市長ほか関係者　４人　　計１６人
トークテーマ	①　地域共生社会の実現に向けて ②　子育て支援について ③　フリートーク

【市長のあいさつ】

車座集会は色んな形で実施している。参加者やトークテーマを指定して実施する場合もあれば、最近では地域活動等の視察を兼ねて意見交換をする手法を取り入れるなど、より多くの方々との意見交換ができるよう随時工夫を行っているところである。今回は公募により集まっていただいた皆さんと対話を行うフリートーク型であり、通算で23回目の車座集会である。限られた時間ではあるが、皆さんから多様な意見をもらい、市政運営の改善へとつなげていければと思う。

【意見交換】

テーマ①　地域共生社会の実現に向けて

〈参加者〉自分は高齢者であるが、健康のために歩くことを心掛けている。その中で思っていることとしては、歩道に休憩できるスペースが一定間隔ごとにあればと思う。また、街路樹の根が成長して歩道に根上がりが生じている箇所がある。高齢者でも安心して歩くことができるよう歩道環境の改善をお願いしたい。また市所有の側溝清掃を自身で試みるもグレーチングが重く難しいため、市による定期清掃をお願いしたいということと、JR 立花駅を利用することが多いが、南側にエレベーターがない上に南北に移動するための地下道について通行ルールがなく危なく感じているため、対策をしてもらいたい。

〈参加者〉JR 立花駅のバス停に行くまでのアクセスに関して、駅の改札からバス停までが迷路のようであるし、階段であるため困っている人が多い。

〈市長〉JR 立花駅の南側にエレベーターがないことは市としても課題であると認識しているものの、駅舎の構造上の問題もあり、なかなか設置に至らないのが現状である。駅からバス停のアクセスの悪さも認識しているが、なかなか解消できず行政としても苦労している。立花駅南側は昭和 50 年代に再開発し、建物の老朽化が進んできている。そのため、例えば、改めてあの辺りを再開発するタイミングで駅舎をまたぐ南北の移動のしやすさやエレベーターの設置のことも考えていければと思う。街路樹のことに関しても課題であり、昔、まち中の緑を増やす観点から沢山の植樹を行い、そのときの樹木が成長し、根を張って、コンクリートを押し上げるなどの事象が起きている。歩道環境の悪化は防がねばならず、箇所によっては樹木を撤去する場合もある。一方で緑豊かなまちとしての魅力も必要であり、樹木の適切な管理に努めている。

〈参加者〉コロナをきっかけに健康意識が上がり、食べること一つを取ってもタイミング、間隔、順番などを意識するようになった。現在は、「食と生活習慣でつくる健康長寿のまち事業」としてあまらぶチャレンジ事業でも採択をしてもらい取り組んでいるところであり、引き続き市と連携しながら頑張っていきたい。
〈市長〉市とともに精力的に取り組んでいただき嬉しく思う。尼崎市の子どもは全国に比べて肥満傾向にある。小さい頃の食習慣は大人になっても影響し、結果として３大疾病に繋がるケースも少なくない。地域での食と健康に関する啓発等は是非とも継続して進めていってもらいたい。

〈参加者〉自身はこれまで色々なところを転々として現在、尼崎市で住んでいる。従前から福祉の現場で働く中で思っていることは、尼崎市には重度の知的障害の方が多いと感じている。また、そうした状況にも関わらず、サービス提供側の専門性が低く感じる。障害者当事者と認知症の親で生活されているケースもあり、多職種が連携しながら切れ目のない早期の支援を行う必要性を感じる。
〈市長〉尼崎市は都市部にも近い便利なまちということもあり、色んな方が生活しているのは事実である。障害福祉制度は介護保険制度と違い、税金で運用しているところが課題であると認識している。介護保険制度は 40 歳以上の全ての方が保険料を納め、それを原資に介護保険事業が展開されているが、障害福祉は税金が原資となるため、簡単に充実ができてないという性質がある。そのため、市としては障害福祉の実態をしっかり把握し、課題に対応していくことが必要な分野である。現状足りていない部分もあるかもしれないが、実態把握と課題への対応に継続して取り組んでいきたい。

〈参加者〉尼崎市には多くの外国籍住民が住んでおり、日本語学校も複数ある。文部科学省は日本語学校向けに、彼らに対しては日本語を教えるだけではなく、共生社会の一員となる人材育成に取り組んで欲しいと発信している。日本で生活する外国人の一部かもしれないが、日本文化も分かり、母国のことも分かっている地域の貴重なリソースになり得る。税収の増、企業の担い手の確保、日本と母国の２つの文化を知る地域のリソースとなることも考えると外国籍住民との共生は必要と考える。
〈市長〉尼崎市では近年、東南アジアの方の就労による転入が多い傾向にある。ただ、尼崎市だけが顕著に増えているのではなく、大阪や神戸など、働く場所がある地域に増えてきている。国の入国管理制度により、国内で働く外国人の配偶者や子も帯同することが可能となり、今後も外国籍住民は増えることを想定している。こうした中で大事なことは、法的なルールに則って入国し、日本で生活している外国籍住民が、例えば言語の壁による生活のしにくさを感じたり、社会において必要な手続や守るべきルールを知らないことによって不信感が生まれるような事態は生じさせてはいけないと思っている。学校での日本語教育や行政手続のサポートなど必要なことは行政として実施し、また外国人材を雇用した企業も一定の責任を果たしていく必要があると思う。地域レベルでの共生も必要であり、プラザ等では外国籍住民とともに相互理解の促進に向けたイベントも実施している。

〈参加者〉公的な文書が理解しにくいと感じている。行政が発信する内容がしっかりと受け取り側に伝わるよう全てをやさしい日本語にするなどしてはどうか。自分は子どもが４人おり、子ども関係の手続をする際、人数分、手書きの申請書等の作成を求められる。また、市役所の窓口単位で対応も異なっており、ある窓口では予め申請書等の書類に住所が印字されているのに対し、別の窓口では住

所から全て手書きを求められる。自身の住所が彫られたゴム印を所有しているが、ゴム印は認めず手書きに拘る窓口もあり、窓口対応の簡略化と統一化を図って欲しい。

〈市長〉自身も３人の子どもの親であり、各種通知を受け、目を通すが、何を意図しているか分かりにくいものがあると思っている。今後、行政サイドの意図がしっかりと伝わるよう取り組んでいく。

テーマ②　子育て支援について

〈参加者〉自身は元教師であり、PTA にも所属している。保護者や地域住民が学校運営に参画する仕組みであるコミュニティスクールについて、尼崎市では全ての市立学校にその機能が導入されている。これは子どもたちや地域にとって、そして学校現場にとってとても良いことであると認識しているが、多くの人に知られていない。市立学校の教師にコミュニティスクールを知っているか尋ねたが、ほとんどの人が知らなかった。あわせて、地域学校協働活動推進員（コーディネーター）も各校に１人いるものの、全然知られていない。こうした学校を核とした地域づくりは学校現場にとっても助けになるはずであるし、コミュニティスクールのことを現場の先生に話をしようとするも負担になると思われてしまうことが残念である。

〈参加者〉自身も元教師で、尼崎市の学校に小学校に通う子の親であるが、最近学校現場がとても荒れていると感じている。高学年の学年崩壊を危惧しており、教師に対する暴言や暴力行為、教卓に乗るような行為、下級生への暴言や校内備品の破壊などが起きている。真面目に授業を受けている児童が非常に辛い思いをしており、別教室での学習を余儀なくされたり、不登校につながったり、転校を考える児童もいることなど、人生を左右する選択をさせられていると聞く。こうした事象に現場の先生方は尽力されていると思うが、学校としての対応には不透明さを感じる。家庭だけで抱えきれない問題も増えていると思うし、また学校だけで対処するには限界がある中、市全体の問題として、子どもたちの模範意識や他者への想像力を育てる仕組みを検討してもらいたい。

〈市長〉迷惑をかけており申し訳ない。確かに安定していない学校があるのも事実であり、教師の目が行き届かないことに起因する場合はクラス数を増やし、一人の先生の負担を減らすなど対策はしているところである。ただ、教員の配置の充実は県の理解がないと叶わないが、市費で教員を雇うことも考える時期に来ていると思う。元校長先生などを採用し、荒れが生じている教室のサポートに回ってもらうなど対策が必要であると感じている。

〈参加者〉尼崎市の財政状況は良くなってきたと認識しているが、自分の周りには幼稚園までは尼崎市で過ごすが、小学校からは市外に引っ越す子が多かった。やはり子ども医療費の完全無償化や給食費の完全無償化など、大胆な政策を展開することで、選ばれるまちになっていくのではないかと感じる。

〈参加者〉尼崎市の小学生たちにはランドセルに緑のカバーをしているが、それを廃止する代わりに６年間使い続けられる手提げのかばんを入学の際に渡してはどうか。以前、テレビで子どもたちに目立つ色、防水加工で、道具箱も入る大きな手提げのかばんを配布している自治体の取組を見た。尼崎市でも同様の取組を行い、実用的かつ暗くてもある程度目立つかばんの配布をすぐにでも実施して

欲しい。

〈参加者〉尼崎市の児童ホームで働いていたとき、先生方の防災意識の高さがとても印象的である。働いていたときに思ったことは、夏の暑いときに外で遊べないことが課題であると感じた。
〈市長〉これから各学校の体育館には空調も整備されていくので、夏季における児童ホームでの活動の幅も広がっていくと思う。

テーマ③　フリートーク

〈参加者〉尼崎市をもっとよくする観点から、市の南部の公園などにシンボルタワーを建設してほどうか。遊技場、レストラン、展望台、休憩所兼避難所などの機能を備えたものとし、南部の活性化に繋がれば良いと思う。

〈参加者〉ボートレース事業のことで、売上増に向けた取組を進めて欲しい。ボートレース尼崎において市長がプレゼンターとして法被を着て登壇されている姿がとても良かった。自分は他のレース場にも行くが、あるレース場では職員がファンに対して挨拶をしている姿が印象的であった。尼崎市においても同じように職員がファンに対してお礼をすると印象もだいぶ良くなると思う。また、大型のレースを誘致するために市長自らが、競走会に要望に行って欲しい。あとは、ボートレースに嫌悪感を抱いている人がやはりいると思っている。ファンも働いて得た大事な金を投入しているし、選手も命をかけてレースをしている。ボートの売上は市の財政にも貢献していることもあり、ボートレースや全国のファンの皆さんに感謝して欲しいと思う。
〈市長〉グレードの高いレースの誘致は実は毎年競走会等に要望を行っている。また全国のファンの皆さんには感謝しており、機会を捉えてメッセージを発信できればと思う。

【おわりに】

本日も色んな立場の方から様々な意見をいただけたことを嬉しく思う。まだまだ課題も沢山あるが、いただいた意見は庁内でも共有し、尼崎市がもっと良くなるよう取り組んでいきたい。

以　上